

# ディスクロージャー誌

平成29年度上半期

淡路日の出農業協同組合

住所 兵庫県淡路市志筑3112-14

電話 0799-62-6200(代)



## 目 次

ごあいさつ	
JAのプロフィール	1
1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 事業活動のトピックス	3
4. 農業振興活動	4
5. 地域貢献情報	5
6. JA淡路日の出の自己改革の取り組み状況	6
7. 事業の概況(平成29年度上半期)	8
(1) 主要事業	8
(2) 事業実績の推移	9
(3) 有価証券の時価情報	9
(4) 自己資本比率(単体)	9
8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況	10



## ごあいさつ

日頃、皆さま方には格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JA淡路日の出は、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、当JAの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、わかりやすくまとめた「平成29年度上半期ディスクロージャー誌」を作成いたしました。

皆さま方が当JAの事業をさらに安心してご利用いただくため、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

淡路日の出農業協同組合  
代表理事組合長 石 田 正

## プロフィール(平成29年9月末)

設 立	平成5年10月1日(6JA合併)
本 店 所 在 地	兵庫県淡路市志筑3112-14
出 資 金	18億円
総 資 産	2,587億円
組 合 員 数	16,926名
役 員 数	24名
職 員 数	305名
支 店・事 業 部 数	11支店・1事業部

## 1. 経営理念

当組合は、洲本市・淡路市を事業区域とした都市近郊農村地帯で、農業者をはじめ地域住民の方々が組合員となって、相互扶助(お互いに助け合い、お互いに発展していくこと)を共通の理念として運営している協同組織です。

当組合の資金は、その大半が組合員および地域住民の皆さまなどからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では資金を必要とする組合員および地域住民の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当組合は、地域の一員として、農業および地域の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。そのため、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、食料の安全性の確保、環境保全・地域社会への貢献という社会的使命をはたすための諸活動を展開しています。

協同の力で、農業とくらしに貢献するJAづくり  
～JA淡路日の出は、協同の理念を学び実践を通じて、  
「農業」と「くらし」を豊かにし、信頼をきずきまします。～

## 2. 経営方針

- ◇ 「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化による持続可能な農業」  
農業をとりまく環境が厳しい状況となる中で「農業者所得の増大」や「農業生産の拡大」、「地域の活性化による持続可能な農業」の実現に向けて、販売力強化や生産力強化、生産コスト低減ならびに農業経営管理支援を行います。さらには、農業の有する多面的機能の発揮、地域営農振興計画および経済事業改革を実現します。
- ◇ 地域に根ざした協同活動とJA事業の展開  
JAの総合事業(営農、販売、購買、生活、信用、共済等)を通じて協同組合運動に取り組み、組合員と地域に必要とされる組織づくり、地域貢献活動を実践します。
- ◇ 高度な事業運営体制の構築と魅力ある職場づくりの実践  
健全な財務基盤の維持ならびに法令等遵守態勢の確立のため、財務体質の健全性向上に努め、リスク管理態勢の確立とコンプライアンスを重視した職場づくりに取り組みます。また、地域農業の担い手や青年・女性などの多様な組合員の声をJA運営に反映します。  
さらに、自己改革の取り組み施策を着実に実践するため、経営資源のシフトや人材育成を通じ、営農・経済事業の体制を強化します。

### 3. 事業活動のトピックス(平成29年度上半期)

月 日	おもな行事
4月3日	新入職員入組配属式
4月3日	JA淡路日の出洲本支店年金旅行(高知)
4月3日	JA淡路日の出北淡支店年金旅行(京都・滋賀)
4月4日	たまねぎ部会役員会
4月5日	JA淡路日の出津名支店年金旅行(香川)
4月6日	JA淡路日の出五色支店年金旅行(岡山)
4月7日	JA淡路日の出一宮支店年金旅行(京都・滋賀)
4月14日	淡路島たまねぎ生産者大会
5月8日～11日	全国監査機構期末監査
5月20日～21日	プロ野球ウエスタンリーグ公式戦「阪神対中日」 (県立佐野運動公園)
6月13日	いちじく部会役員会
6月23日	新五色浜海水浴場清掃(五色支店)
6月24日	第24回通常総代会
6月27日	ピーマン部会出荷協議会
7月6日	洲本直売所出荷栽培講習会・説明会
7月8日	炬口海水浴場清掃(洲本支店)
7月10日～14日	兵庫県常例検査
7月11日	JA淡路日の出東浦淡路支店年金旅行(福井)
7月22日～23日	農機・自動車合同展示会
7月23日	一宮支店感謝祭
7月24日	いちじく部会出荷協議会
7月25日	ピーマン部会視察研修
7月26日	県立佐野運動公園清掃(津名支店)
8月4日	北淡県民サンビーチ清掃(北淡支店)
8月6日	北淡支店感謝祭

月 日	おもな行事
8月15日～17日	若トラを励ます会「阪神応援ツアー」対広島戦
8月19日	東浦淡路支店感謝祭
8月19日	伊弉諾神宮清掃(一宮支店)
8月20日	洲本支店感謝祭
8月23日	農業用廃ビニール回収
8月25日～26日	JA淡路日の出リフレッシュ旅行「大河ドラマの舞台 龍潭寺 大井川鉄道SL列車1泊2日の旅」
9月12日～14日	若トラを励ます会「阪神応援ツアー」対巨人戦
9月14日	淡路市畜産共進会(淡路家畜市場)
9月16日	洲本市畜産共進会(五色県民健康村)
9月30日	第24回淡路日の出畜産共進会

#### 4. 農業振興活動

JA淡路日の出では、農業者所得増大と農業生産拡大等による持続可能な農業の実現に取り組みます。また、販売力強化および生産力強化とコスト低減ならびに農業管理支援、さらには経済事業改革にも取り組みます。

##### (1) 農業者所得の増大

生産の効率化や販売の多様化、ブランド力による差別化を図り、新たな提案により農業者所得の向上に取り組みます。

##### (2) 農業生産の拡大

農業者と地域のJAが一体となり地域農業が活性化出来る体制を整備し、地域に密着した組織基盤の確立に取り組みます。

##### (3) 地域農業の活性化

地域の特色を活かした農産物を継承し、活力ある地域農業づくりを図るため、地域に密着した農業基盤の確立に取り組みます。



## 5. 地域貢献情報

JA淡路日の出は、JAの協同組合活動の原点である「組合員の営農と暮らし」を守り、地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するため様々な活動を展開しています。

### (1) 社会貢献活動

#### ① 環境問題への取り組み状況

「地球にやさしい農業」への取り組みとして、定期的に廃プラスチック・ビニール等の回収および不要農薬の回収を実施しています。

### (2) 地域貢献活動

#### ① 地域からの資金調達の状況

ア. 貯金残高(平成29年9月末現在)

(単位:百万円)

種 類	残 高
当 座 性	38,853
定 期 性	195,101
小 計	233,954
譲 渡 性	0
合 計	233,954

#### ② 地域への資金供給の状況

ア. 貸出金残高(平成29年9月末現在)

(単位:百万円)

種 類	残 高
農業近代化資金	16
その他制度資金	105
農業関連融資	253
事業関連融資	11,023
住宅関連融資	20,369
生活関連融資	588
そ の 他	277
合 計	32,631

#### ③ 文化的・社会的貢献に関する事項

##### ア. 福祉活動

介護保険制度の訪問介護事業者の指定を受け、サービスの提供を行っています。また、高齢者への生活介護援助・助け合いなどの活動に取り組んでいます。

##### イ. 職員の地域貢献活動への参加

職員は、地域清掃活動や消防団活動をはじめとした社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しております。

##### ウ. スポーツイベントの開催

スポーツを通じて、青少年の健全な育成のための活動を行っています。

## 6. JA淡路日の出の自己改革の取り組み状況について

### (1) 自己改革の考え方について

JA淡路日の出では、農業者ニーズに応え、担い手をサポートし、農業者や地域住民と一体になって「持続可能な農業」と「豊かでくらしやすい地域社会」を実現していくため、「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本とした自己改革を決定しました。この目標を達成するためJAは、自主・自立の協同組合であることを鮮明にし、組合員の意思に基づき、今まで以上の創意工夫を発揮し、積極的に新たな事業展開に取り組みます。

### (2) 自己改革の取り組みについて

当JAでは、自己改革の取り組みについて「協同の力で、農業とくらしに貢献するJAづくり」を経営理念とした3か年事業経営計画を基本にしています。

JA淡路日の出 3か年事業経営計画書(平成29年度～平成31年度)

#### 【経営理念】

協同の力で、農業とくらしに貢献するJAづくり

#### 【基本方針】

- ①農業者所得の増大、農業生産の拡大および地域の活性化による持続可能な農業の実現
- ②地域に根ざした協同活動とJA事業の展開
- ③高度な事業運営体制の構築と魅力ある職場づくりの実践

なかでも、最重要課題である「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」の達成に向けた取り組みについては、『第1次JA淡路日の出 自己改革プログラム』として、役職員が一丸となって実践しています。

### (3) 今後の取り組みについて

『第1次JA淡路日の出 自己改革プログラム』に掲げる取り組みについては、3か年事業経営計画および単年度事業計画のなかで重点的に進捗管理を行ない、着実に実践していきます。

引き続き、組合員みなさまとともに自己改革を実践しますので、ご協力をお願いします。

JA淡路日の出 第1次自己改革プログラム

基本方針	取り組み項目	平成29年度目標値	平成29年度上期に取り組んだ項目	上期達成数値	平成29年度下期に取り組む項目
農業者所得の増大	農畜産物販売力の強化	淡路島いちじく地域団体商標取得の準備	淡路島いちじく地域団体商標の取得準備のため行政・普及所と協議を重ねました。		淡路島いちじくの地域団体商標取得を目指します。
		販売市場・小売店巡回による情報収集	兵庫県内、大阪府、京都府の各販売市場を巡回し、情報の収集を図りました。		上期に引き続き販売市場・小売店の巡回を行い消費者の動向情報を収集し、作付け品目や出荷時期の調整を図って行きます。
		農畜産物直売部会の設立 部会員の募集	・7月 6日 出荷栽培講習会および説明会を開催しました。(本店・洲本支店) ・9月11日 出荷部会説明会を開催しました。(本店・洲本支店)	124名参加 90名参加	出荷部会として設立総会を開催します。 春夏野菜栽培講習会を開催し、栽培希望者や出荷者を募ります。
		支店ごとに年6回開催	各部会にて研修会を開催いたしました。	洲本4回、津名2回、東浦3回、 北淡7回、一宮3回、五色3回	上半期に引き続き各支店各部会において順次開催いたします。
		目慣らし会：5回(たまねぎ、いちじく、ピーマン、秋冬 作野菜は2回)	たまねぎ根付き・葉付きの研修を開催いたしました。 いちじく検査員の目慣らし研修を開催しました。		秋冬野菜の目慣らし会を開催いたします。
		兵庫県認証食品の取得申請	ブロッコリーを認定食品として検討を行い、認定準備を行いました。		ブロッコリーを認定食品として行政と連携し早期認定を図ります。
		2か所	・淡路放牧研修会に参加し募集に向けた準備を行いました。 ・洲本市 五色町(斉藤久之)新規放牧計画中 ・淡路市 既存放牧農家の放牧面積の拡大を図りました。	淡路市既存放牧農家(4軒) 放牧面積約1.5ha拡大	関係機関と連携して来年度以降も含め、新たに放牧実施希望農家の募集継続を行います。
	農業の生産コスト低減	後継牛の増頭確保 40頭	準候補牛、準認定牛、候補牛、認定牛の選定を行いました。	準候補牛107頭 準認定牛 12頭 を保留	準候補牛及び準認定牛の継続選定と保留推進をすすめます。
		玉葱トリマー2台 全自動移植機1台 乗用草刈機1 台	乗用草刈機の代用としてフレールモアを取得しました。 たまねぎ慣行用播種機を取得しました。		レンタル農機として活用していきます。
		販売資材：3%削減 農薬：2%削減 肥料：2%削減	販売資材(たまねぎ・いちじく出荷用ダンボール)：2～3%削減 秋冬作野菜農薬：2%削減 秋冬作野菜肥料：2%削減	販売資材：3%削減 野菜農薬：2%削減 野菜肥料：2%削減	水稲肥料：2%削減の取り組み予定 水稲農薬：2%削減の取り組み予定 販売資材(花卉出荷用ダンボール等)：2～3%削減
		コスト低減水稲肥料の提案	全農集約銘柄の肥料、JA化成を2品目の選択・検討を行いました。 広報誌に告知掲載を行いました。	8月発行の広報誌に「肥料の新たな共同購 入運動」として掲載	水稲肥料注文書を新規に作成し、省力商品、低コスト商品等努力、費用の削減による農業への転換を提案します。
		現状施設の稼働状況の分析	玉葱選果場の機械更新を検討し、平成31年度に向けて取り組みを始めました。		玉葱選果場の機械更新に向け計画の準備に行います。
		農業経営事業によるコスト削減経営の試験実施	水稲育苗センターでの播種同時施用の農薬試験を実施しました。		農業経営事業によるコスト削減経営の試験実施を行います。
		アプローチ：秋冬作野菜農家へ提案	十分な取り組みができていません。		秋冬作野菜農家に対して近隣の畜産農家と契約を進めるため、アプローチを行い提案を行います。
農業生産の拡大	地域に密着した農業および組織基盤の確立	契約栽培作物の選定と販売先との交渉	キャベツ・青葱以外品目の選定と受入市場の選定を行いました。		契約栽培作物の選定と販売先との交渉を行います。
	農地の保全と農業生産の環境整備	利用方法の検討による方策設定	十分な取り組みができていません。		行政・普及センターと連携を密にし検討を行っていきます。
		栽培・飼養等研修会 農産物：18回 畜産：12回 病害対策への助成施策の実施	たまねぎべと病対策として農薬購入助成の案内および助成申込手続きを行いました。 普及センターと連携し研修会を開催しました。	429件 585万円	各支店各部会・普及センターと連携し順次各支店単位で研修会を開催します。
地域農業の活性化	新たな農畜産物の産地づくり	随時、農畜産物出荷者への啓発・内容検証	各部会の栽培講習会・生産者大会・出荷協議会等で啓発しました。 栽培履歴記帳の検証を行い、記帳方法の統一を行いました。		引き続き、各部会の栽培講習会・生産者大会・出荷協議会等で啓発します。 各部会等での栽培履歴の統一様式の説明会を開催いたします。
		支店・行政等からの情報収集	支店・行政等から遊休施設の状況について情報収集を行いました。		先進地視察を行い、産地づくりの準備を行います。
	組合員農家への経営管理支援	部会の設立	7月27日第1回税務研修会開催および青色申告部会設立総会開催を開催し、役員の選出を行いました。		11月17日第2回税務研修会の開催を予定しています。
		実践農家・組織：3か所	十分な取り組みができていません。		実践農家・組織3か所を選定し、実践いたします。
	実行額：100百万円 活用件数：100件	毎月の融資担当者会で進捗や推進状況を確認し、認定農業者等へ営農相談員と金融渉外係が訪問し情報の交換を行いました。	農業資金への融資額は49,968千円うちJA 利子助成資金42,978千円で20件	認定農業者や中核農家へのアプローチ、情報提供をすすめる100百万円を超える融資実行をすすめます。	

## 7. 事業の概況(平成29年度上半期)

日本経済は、企業収益の改善が続く中で緩やかに回復基調が続いています。2012年12月から始まった「アベノミクス景気」が、いざなぎ景気を抜いて戦後2番目の長さとなりました。しかし、内外需の伸びは弱く、雇用環境は良くても賃金の伸びは限られ、回復の実感は乏しいものとなっています。

農業面では、30年産を目途に行政による米の生産数量目標の配分が廃止されるなど、米政策の見直しに向けた産地の対応が求められています。また、TPP交渉は米国の離脱表明後、11カ国間で協定の早期発効を目指して協議が進められており、動向に注視する必要があります。

このような情勢のなか、当JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、平成29年9月末日現在の当期剰余金は4億28百万円となり、前年度対比108.0%となりました。

### (1) 主要事業

#### ① 信用事業

利用者に信用・信頼される地域金融機関としての機能の充実に努めるとともに、新規開拓に取り組み、取引先の拡大をはかりました。

この結果、9月末貯金残高は2,339億54百万円と期首残高に対して101.1%となりました。

また、貸出金は住宅・自動車・教育ローン等の獲得により、9月末貸出金実績は、326億31百万円となりました。

#### ② 共済事業

組合員とその家族、さらには地域住民を含めた幅広い普及活動の展開により、長期・年金・自動車・自賠責共済など必要な人に必要な保障の提供をはかる推進活動を展開しました。

この結果、長期共済の新契約高は9月末現在で441億61百万円の実績となりました。

#### ③ 購買事業

利用者ニーズに応えた安全・安心で適正な商品を提供しました。

この結果、購買品供給高は、9月末現在で12億09百万円の実績となりました。

#### ④ 販売事業

生産者部会を中心に、生産履歴の記帳を徹底し、消費者への食の安全・安心と信頼の確保に努めました。

この結果、販売品販売高は、9月末現在で22億49百万円の実績となりました。

#### ⑤ 指導事業

品質向上に向けた栽培方法やコスト低減に向けた栽培体系の見直し、新たな栽培・防除技術の導入に取り組むとともに、農業の担い手の育成に努めました。

## (2) 事業実績の推移

(単位:百万円)

項 目		平成29年9月末	平成29年3月末	平成28年9月末
信用事業	貯 金	233,954	231,486	226,413
	貸 出 金	32,631	32,470	32,934
	預 金	197,552	194,311	189,768
	有 価 証 券	8,067	8,126	8,059
共済事業	長期共済保有高	485,056	490,518	494,017
	長期共済新契約高	44,161	34,130	21,362
	短期共済新契約掛金	298	635	287
経済事業	購買品供給高	1,209	2,539	1,193
	販売品販売高	2,206	5,485	2,546

## (3) 有価証券の時価情報

(単位:百万円)

保有区分	平成29年9月末			平成29年3月末		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
売 買 目 的	-	-	-	-	-	-
満期保有目的	4,007	4,343	336	4,006	4,362	355
そ の 他	3,691	4,060	369	3,730	4,119	389
合 計	7,698	8,403	705	7,736	8,482	745

- (注) 1. 時価は市場価格等により計上しています。  
2. 取得価格は取得原価または償却原価により計上しています。  
3. 満期保有目的の債券については、取得価額を計上しております。  
4. その他有価証券については、時価としております。

## (4) 自己資本比率(単体)

平成29年9月末	平成29年3月末
21.56%	20.85%

(新BIS基準による)

## 8. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

(単位:百万円、%)

債権区分	平成29年9月末	平成29年3月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	9	23
危険債権	3	1
要管理債権	0	0
小計(A)	12	24
保全額(合計)(B)	12	24
担保	9	21
保証	1	1
引当	1	2
保全率(B/A)	100	100
正常債権	32,658	32,490
合計	32,671	32,514

(注)1. 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分したものです。

①破産更正債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

②危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本及び利息の回収ができない可能性の高い債権

③要管理債権

3ヵ月以上延滞貸出債権(元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出債権)及び貸出条件緩和貸出債権(経済的困難に陥った債務者の再建又は支援をはかり、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権)

④正常債権

上記以外の債権

(注)2. 平成29年3月末から9月末までの間に、債務者区分の変更が必要と認識した先については、9月末時点の債務者の状況に基づき債務者区分を変更し、各債権額は平成29年9月末時点の残高に修正しています。





JA淡路日の出